



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 9 月 5 日 (金)

発行 館長 加 藤 智 一

地球史に残る大量絶滅事件

地球の歴史には、生命が大規模に絶滅した「大量絶滅事件」が少なくとも 5 回確認されているそうです。これらは「ビッグファイブ」と呼ばれ、さらに、現在進行中とされる「第 6 の絶滅」も議論されているのだとか。

地球の「ビッグファイブ」大量絶滅事件

① オルドビス紀末

4 億 4400 万年前 寒冷化・氷床拡大が主な原因
絶滅率約 85%

② デボン紀後期

3 億 7400 万年前 海洋酸素濃度低下・気候変動が主な原因 絶滅率約 82%

③ ペルム紀末

2 億 5200 万年前 火山活動・温暖化・酸素減少
絶滅率約 90～96%

④ 三疊紀末

2 億 100 万年前 火山活動。CO₂ 増加
絶滅率約 76～80%

⑤ 白亜紀末・暁新世末

6600 万年前～5500 万年前 火山活動・温暖化後、寒冷化・隕石衝突 絶滅率約 75%

ざっくりとこんな感じです。ではなぜ現在「第 6 の大量絶滅進行中」という話が出ているのかというと、人間活動による環境破壊（森林伐採、気候変動、汚染など）により、100 万種以上の動植物が絶滅の危機に瀕しているとされ、過去の絶滅速度の約 100 倍で進行中だとする説があるからです。絶滅速度に単位があるのかどうか分かりませんが、先日拝聴した講演では、数万年とも数十万年とも言っていましたので、一週間後「ハイ絶滅!!」という話ではなく、ジワリジワリと気付かない内に進行してくるという話です。それにしても 100 倍速ですので、人間はなんと罪な生き物なのでしょう。



大量絶滅は、地球の生態系を根本から変える出来事です。絶滅後には「適応放散」と呼ばれる進化の爆発が起こり、新たな生物群が台頭します。たとえば、恐竜の絶滅後に哺乳類が繁栄したように。人間が絶滅したら、

次に繁栄を遂げるのは、どんな生き物でしょうか。母なる地球のみぞ知る!!

バレルエイジドコーヒー



「バレルエイジドコーヒー (Barrel Aged Coffee)」とは、ウイスキーやワイン、ラム酒などの熟成に使われた木樽にコーヒーの生豆を一定期間寝かせて熟成させることで、樽の香りや風味を豆に移すという特別な製

法で作られたコーヒーのことですが、ここに来てちょっとしたブームの兆しが見えてきました。その特徴はというと、何と言っても香りのマリアーージュ。樽に染み込んだウイスキーやワインの香りがコーヒー豆に移り、バニラ、キャラメル、スパイス、ウッディな香りなどが加わります。「アルコール分が残るのではないかと心配なあなた、心配ご無用。焙煎時にアルコール成分は飛ぶため、酔う心配はありません。香りだけを楽しむスタイルです。ただし、熟成には数週間～数ヶ月かかり、少量生産のため希少価値が高く、ちょっとお高い逸品となりますので、特別な日に味わう特別な一杯ということで、割り切ってお楽しみいただければよろしいのかと。

「バレルエイジドコーヒー」は熟成に使用した樽によって風味が異なります。ウイスキー樽を使用すると、バニラ、キャラメル、スモーキーな風味となり、ワイン樽を使用しますと、ベリー系の香りと酸味やフルーティーな余韻を味わうことができます。また、ラム樽を使用しますと、甘みやトロピカルな香りを感じることができるそうです。

おすすめの飲み方としては、ブラックで香りを楽しむなら、ドリップやフレンチプレスでじっくり抽出したものがお勧め。その他にもコールドブリューやオンザロックにするならば、ウイスキーグラスで飲むと雰囲気も爆上がりです。

「バレルエイジドコーヒー」は、単なる飲み物というより「香りの記憶を閉じ込めた体験型の一杯」と言えるかもしれません。気になる方は、早速ご注文あれ。ネットでも購入可能。山形の場合でしたら、東北萬国社さんがかなり力を入れていると聞きました。どうです、飲んでみたくなりましたか？